

第11回 三大改革と外国の接近

§1 江戸時代の三大改革

江戸時代、幕府や藩の主な収入は米だった。武士は城下町に住み、藩からの給料として米を与えられ、それをお金に変えて生活していた。そのようなしくみの中で、商品流通と貨幣経済が大きく発展し、商人の経済力が高まった一方で、幕府や藩の支出は増加し、財政難に苦しむようになった。このことは、固定化された身分制度と自給自足的な経済の上に成り立つ幕藩体制を揺るがす大きな問題であった。そのため幕府や藩は、政治や財政の改革によって財政難を克服し、再び幕藩体制を強化しようと試みた。

幕府の取組としては、三大改革がよく知られている。一つ目、8代将軍の徳川吉宗による改革は享保の改革と呼ばれる。吉宗は、庶民の意見を聞く目安箱の設置や裁判のルールを定めた公事方御定書の制定など、公正な政治を目指した。支出をおさえ、収入を上げることで幕府財政の建て直しには成功したが、百姓の負担が重くなるなどの問題を残した。

10代将軍の頃には、老中田沼意次が商品経済を発展させ、民間の経済力を伸ばすことによって財政再建を目指したが、不正と賄賂が広がり、田沼は失脚した。次の老中松平定信が進めたのが、二つ目、寛政の改革である。定信は田沼の政治を否定し、農村の復興に力を入れた。飢饉の対策など、優れた政策もあったが、一方で、あまりにも厳しい取り締まりを行ったため人々の反発をまねき、6年で失脚した。

その後、深刻な凶作と飢饉によって各地で一揆や打ちこわしが起こり、政治の立て直しのために老中水野忠邦によって三つ目、天保の改革が行われた。しかし、水野の政策はどれもうまくいかず、改革は失敗に終わった。一方、地方の藩の中には、薩摩藩、長州藩など、財政を建て直し、独自の改革を成功させたものも現れた。

§2 外国の接近

鎖国を続けていた日本に対して、市民革命や産業革命によって近代化を進めた欧米諸国の船が18世紀以降しきりに日本沿岸に現れるようになった。外国からの開国要求を拒否し続けた幕府は、沿岸の警備を強化し、1825年には異国船打払令を出して外国船の撃退を命じた。しかし、1842年アヘン戦争で清国がイギリスに大敗したことが伝えられると、薪水給与令を出して外国船への補給を認めるようになった。が、それでも開国の要求には応じようとしなかった。

第11回 三大改革と外国の接近

§1 江戸時代の三大改革

江戸時代、幕府や藩の主な収入は米だった。武士は城下町に住み、藩からの給料として米を与えられ、それをお金に変えて生活していた。そのようなしくみの中で、商品流通と貨幣経済が大きく発展し、商人の経済力が高まった一方で、幕府や藩の支出は増加し、財政難に苦しむようになった。このことは、固定化された身分制度と自給自足的な経済の上に成り立つ幕藩体制を揺るがす大きな問題であった。そのため幕府や藩は、政治や財政の改革によって財政難を克服し、再び幕藩体制を強化しようと試みた。

幕府の取組としては、三大改革がよく知られている。一つ目、8代将軍の徳川吉宗による改革は享保の改革と呼ばれる。吉宗は、庶民の意見を聞く目安箱の設置や裁判のルールを定めた公事方御定書の制定など、公正な政治を目指した。支出をおさえ、収入を上げることで幕府財政の建て直しには成功したが、百姓の負担が重くなるなどの問題を残した。

10代将軍の頃には、老中田沼意次が商品経済を発展させ、民間の経済力を伸ばすことによって財政再建を目指したが、不正と賄賂が広がり、田沼は失脚した。次の老中松平定信が進めたのが、二つ目、寛政の改革である。定信は田沼の政治を否定し、農村の復興に力を入れた。飢饉の対策など、優れた政策もあったが、一方で、あまりにも厳しい取り締まりを行ったため人々の反発をまねき、6年で失脚した。

その後、深刻な凶作と飢饉によって各地で一揆や打ちこわしが起こり、政治の立て直しのために老中水野忠邦によって三つ目、天保の改革が行われた。しかし、水野の政策はどれもうまくいかず、改革は失敗に終わった。一方、地方の藩の中には、薩摩藩、長州藩など、財政を建て直し、独自の改革を成功させたものも現れた。

§2 外国の接近

鎖国を続けていた日本に対して、市民革命や産業革命によって近代化を進めた欧米諸国の船が18世紀以降しきりに日本沿岸に現れるようになった。外国からの開国要求を拒否し続けた幕府は、沿岸の警備を強化し、1825年には異国船打払令を出して外国船の撃退を命じた。しかし、1842年アヘン戦争で清国がイギリスに大敗したことが伝えられると、薪水給与令を出して外国船への補給を認めるようになった。が、それでも開国の要求には応じようとしなかった。

Part I I: Three Major Reforms and the Approach of Foreign Countries

§ I The three major reforms of the Edo period

During the Edo period, rice was the main source of income for the shogunate and its domains. Samurai lived in castle towns (城下町 "jookamachi") and were given rice as wages from their domains, which they converted into money to live on.

Under such a system, commodity distribution and monetary economy developed greatly, and while the economic power of merchants increased, the expenditures of the shogunate and domains increased, causing them to suffer financial difficulties. This was a major problem that shook the bakufu-han system, which was based on a fixed status system and a self-sufficient economy. Therefore, the Bakufu and clans attempted to overcome the financial difficulties through political and financial reforms to once again strengthen the bakufu-han system.

Three major reforms are well known as efforts of the shogunate. The first, by the 8th shogun, Tokugawa Yoshimune(徳川吉宗), is known as the Kyoho Reform(享保の改革 "Kyoho no Kaikaku"). Yoshimune aimed for fairness in government by establishing a system of reference boxes (目安箱 "meyasu-bako") to listen to the opinions of the common people and by enacting the "Kujigata Osadamegaki(公事方御定書 Rules of Public Affairs)," which stipulated the rules of court proceedings. Although he succeeded in rebuilding the finances of the shogunate by curbing expenditures and raising revenues, he left behind problems such as the heavy burden on peasants.

During the 10th Shogun's reign, the old lieutenant Tanuma Okitsugu tried to rebuild the finances by developing a commodity economy and extending the economic power of the private sector, but fraud and bribes spread, and Tanuma was ousted from office. The second reform, the Kansei Reforms(寛政の改革 "Kansei no Kaikaku"), was promoted by Matsudaira Sadanobu(松平定信), the next senior lieutenant. Sadanobu rejected Tanuma's politics and focused on the restoration of farming villages. He had some excellent policies, such as famine control, but at the same time, he cracked down so harshly that he provoked a backlash from the people, and he lost his office within six years.

Later, severe crop failures and famine led to revolts (一揆 "Ikki") and raids for looting (打ち壊し "Uchikowashi") in many areas, and the old chief Mizuno

Tadakuni(水野忠邦) implemented the third reform, the Tempo Reforms(天保の改革 “Tempo no Kaikaku”), to restore the political order. However, none of Mizuno's policies worked, and the reforms ended in failure. On the other hand, some local clans, such as the Satsuma and Choshu clans, rebuilt their finances and succeeded in their own reforms.

§ 2 the Approach of Foreign Countries

While Japan had remained closed to the rest of the world, ships from Western countries that had modernized(近代化 “Kindai-ka”) through the civil revolutions(市民革命 “Shimin Kakumei”) and industrial revolutions(産業革命 “Sangyo Kakumei”) began to appear off the coast of Japan frequently from the 18th century onward. The Shogunate, which continued to reject foreign demands to open the country, strengthened coastal security, and in 1825 issued an order to repel foreign vessels(異国船打払令 “Ikokusen Uchiharai Rei”). However, in 1842, when it was reported that the Qing Empire had suffered a crushing defeat at the hands of the British in the Opium War(アヘン戦争), the shogunate issued an ordinance for the supply of firewood and water(薪水給与令 “Shinsui Kyuyo Rei”), and began to permit the supply of foreign ships. However, he still refused to comply with the demand for opening the country to the outside world.

第 11 回 三大改革及与外国的接触

§ 1 三大改革

江户时代，幕府及各藩将大米作为主要收入。居住在城下町的武士，从各藩得到作为薪水的大米，再将其换为金钱维持生计。在这样的机制下，商品流通与货币经济取得了大力发展，使商人的经济实力得到了显著提升，但同时在另一方面却增加了幕府及各藩的支出，使财政陷入困难。正是由于这个原因，给固定化的身份制度和自给自足的经济基础之上形成的幕藩体制带来了巨大问题。为此，幕府及各藩通过政治财政改革试图解决财政困难，进而再次强化幕藩体制。

三大改革作为幕府的改革措施，为人们所熟知。首先，由幕府第八代将军德川吉宗所发起的改革，被称之为享保改革。吉宗将军以营造公平的政治环境为改革目标，提出了设置听取民众意见的目安箱，制定审判规则的公事方御定书等举措。虽然通过节流增收成功重整了幕府财政，但也留下了加重农民负担等隐患。

第十代将军统治时期，老中田沼意次旨在通过商品经济的发展及扩大民间经济实力来改善财政收支状况，却因整个社会的违法和贿赂之风的蔓延导致下台。继任者松平定信进行的第二次改革，被称之为宽政改革。定信否定了田沼的经济政策，致力于农村的改革复兴。虽然在应对饥荒等问题上采取了有效的政策，但另一方面，过于严格的控制激起了民众的反抗，仅仅经过六年也黯然下台。

这之后，由于严重的歉收和饥荒，各地相继爆发了农民起义（一揆）和打砸（打ち壊し）事件，老中水野忠邦为重整政治体制从而进行了第三次改革，称之为天保改革。但是，其政策都未取得显著成效，改革以失败告终。另一方面，在地方的萨摩藩，长州藩等各藩中，也出现了通过重整财政，取得各自改革成功的事例。

§ 2 外国的接触

相对于继续维持闭关锁国政策的日本，十八世纪以后，通过资产阶级革命（市民革命）和工业革命（産業革命）实现了近代化的西方国家的船只开始频繁出现在日本沿海。始终坚持拒绝外国开放要求的幕府，加强了沿海安全，并于 1825 年颁布了异国船驱逐令（異国船打払令），（对外国船只）坚决地予以驱逐。然而，当 1842 年鸦片战争（アヘン戦争）中，清朝惨败于英国的消息传出后，幕府颁布薪水给予令（薪水给与令），允许给外国船只提供补给。即便如此对于外国的开国要求依然给予回绝。